

北区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
やんぐ★るーきーず		北保健センター			
事業目的	事業内容	活動指標	H28	H29	H30
北区のまちづくりビジョンである、「子育て層が孤立しない地域ぐるみの子育て支援を広げていく」という孤立予防の視点から、主に10代で出産した母親を中心に、22歳までに出産した保護者と乳幼児を対象に、グループにて育児支援を行い、つながりづくり・親の社会性の獲得・安定した子育てが行える基盤づくりをめざす。	年間11回。月1回開催。 ○保護者同士、スタッフを交えた交流：季節行事や軽作業を実施しながらの交流 ○社会性獲得に向けた学習：ライフプランの立て方、子どもへの適切な接し方、健康づくりについて、家族計画について等 ○保健専門職による子育て相談	やんぐ★るーきーず参加者数	延161人	延102人	延121人
		新規参加者数	実7組	実4組	実14組
①妥当性	②協働の視点	③インパクト	④効率性		
◎ 北区の妊娠届出数は全区の中で最多である。また、子育て世代の転入が多い。若年の母は、世代の差を感じ、子育て交流の場に参加しにくいとの声がある。悩みに寄り添う支援が必要で、孤立予防・虐待予防の視点からも妥当である。	◎ 健康づくりを推進するボランティア等の協力を得て運営・実施することにより、子育て支援にかかわる人材育成の場としても活用している。また保健センターでは、府大との産学官連携人材育成等事業を活用し、若年の母の社会参加を促進するためのサポートをしてきた経過があり、現在も府大准教授の協力を得ている。	◎ どの年代層にも子育てをしやすいまちづくりを行っている北区において、ハイリスクな若年層をターゲットにした子育て支援の取り組みであり、堺市では7区中2区のみ実施している。	○	若年の妊婦には、妊娠届出時の面接の中で事業紹介をしており、乳児全戸訪問事業等でも若年の保護者へ個別に紹介できている。また、若年の保護者を対象とした類似事業はなく、助産師・保育士の最小限の予算(人件費)で、相談・交流ができています。	
⑤自立発展性	総合評価				
△ 本事業の参加者については、個々に課題がある場合が多く、行政が積極的に保護者同士の交流の場や適切な情報を伝えていく必要があると考える。今後とも保護者へのヒヤリング等を通じて参加者のニーズも把握し、継続的な参加を促していく。	◎ 気軽に参加でき、悩みや求める情報を共有しやすい場を提供していることで、参加者間の交流が深まっている。本事業に参加することで、孤立を解消し、子育てや生活の見通しをもつ機会となり、子育て力の向上に寄与している。				
今後の方向性(課題、改善提案等)					
拡充 継続 見直し 廃止	参加者が減少傾向であったが、大型商業施設でのポスター掲示や事業内容の案内チラシを工夫した結果、新規参加者は増加した。令和元年度については、参加者の増加、就労等によるやんぐ★るーきーずの卒業までの継続参加を目標に、卒業した保護者自らの体験談を積極的に語ってもらう機会を設けるなど、魅力あるプログラムづくり等、内容を充実させていく。				